

IR 事業説明会 自動車部品・電池事業

2016年6月1日

自動車部品事業部門長

小塚 崇光

将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

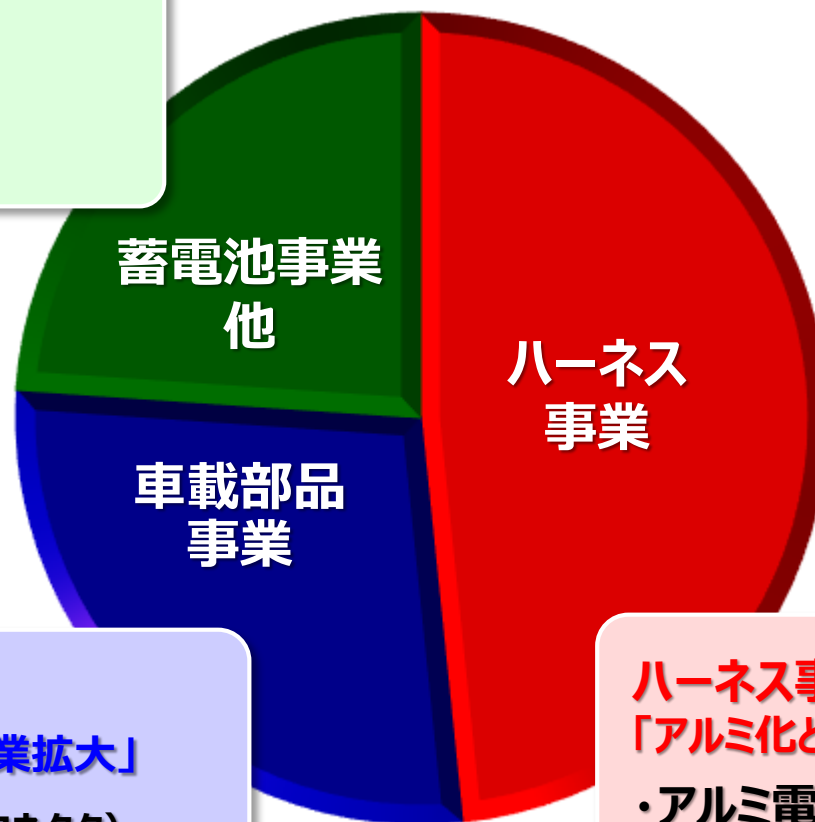
著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

古河電気工業株式会社

蓄電池事業 他

- ・アイドリングストップ用
ウルトラバッテリー
- ・EN規格鉛蓄電池



蓄電池事業
他

ハーネス
事業

車載部品
事業

車載部品事業

「安全と環境をテーマに事業拡大」

- ・SRC (ステアリングロールコネクタ)
- ・BSS (バッテリー状態検知センサ)
- ・周辺監視レーダー、車内照明、等

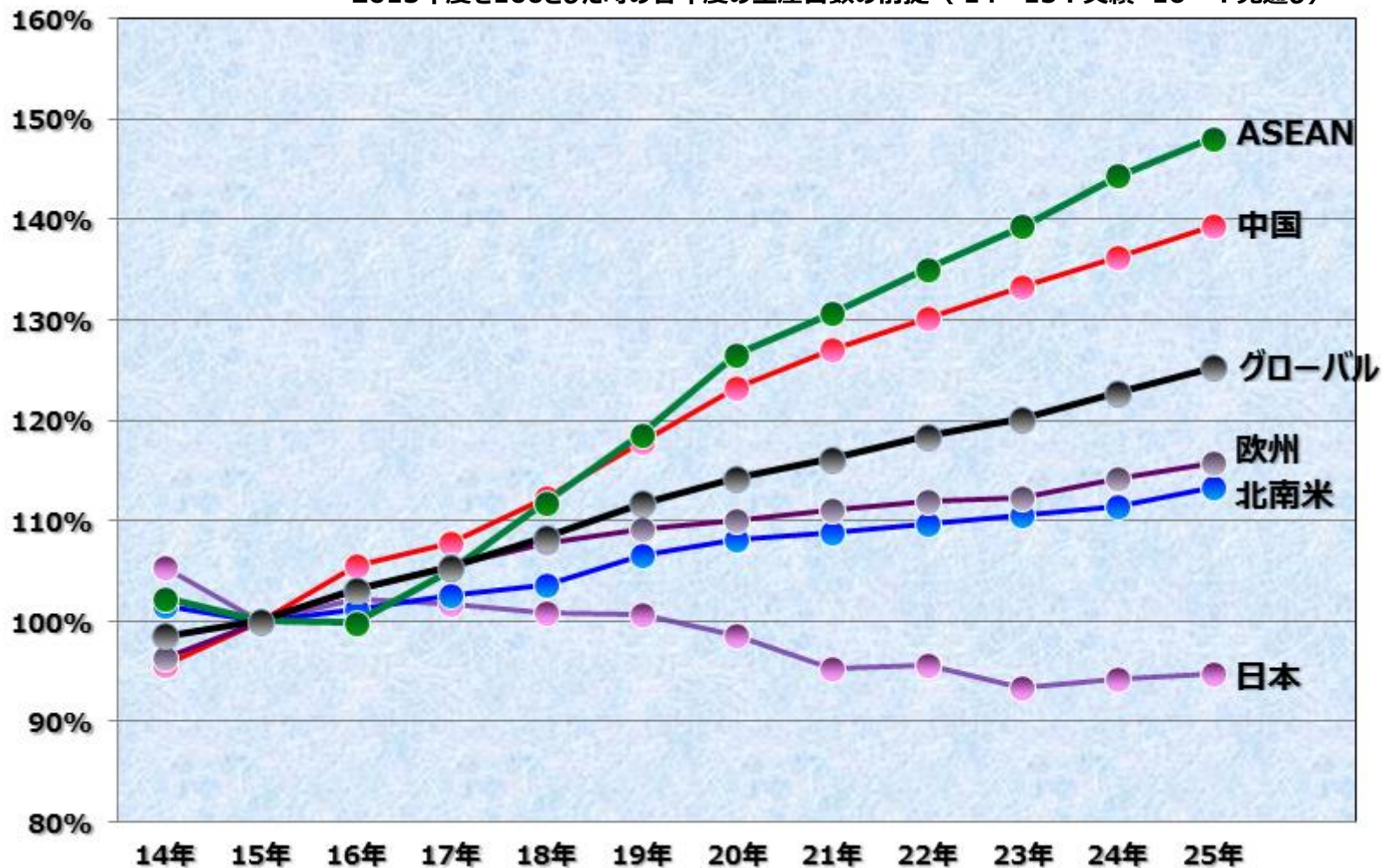
ハーネス事業

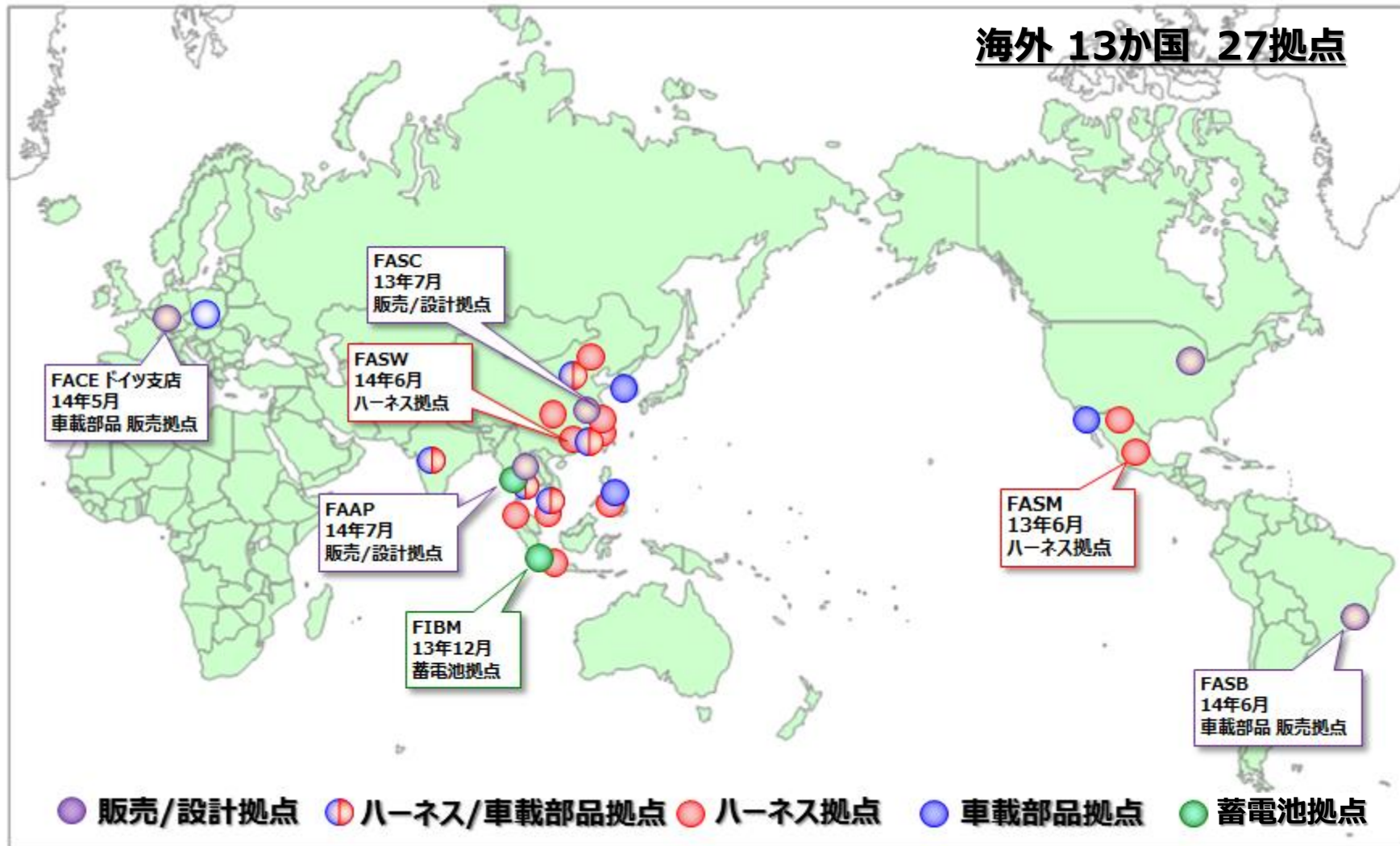
「アルミ化とグローバルシフト」

- ・アルミ電線
- ・防食端子 (α端子シリーズ)
- ・高圧ハーネス

自動車部品・電池 自動車生産台数の前提

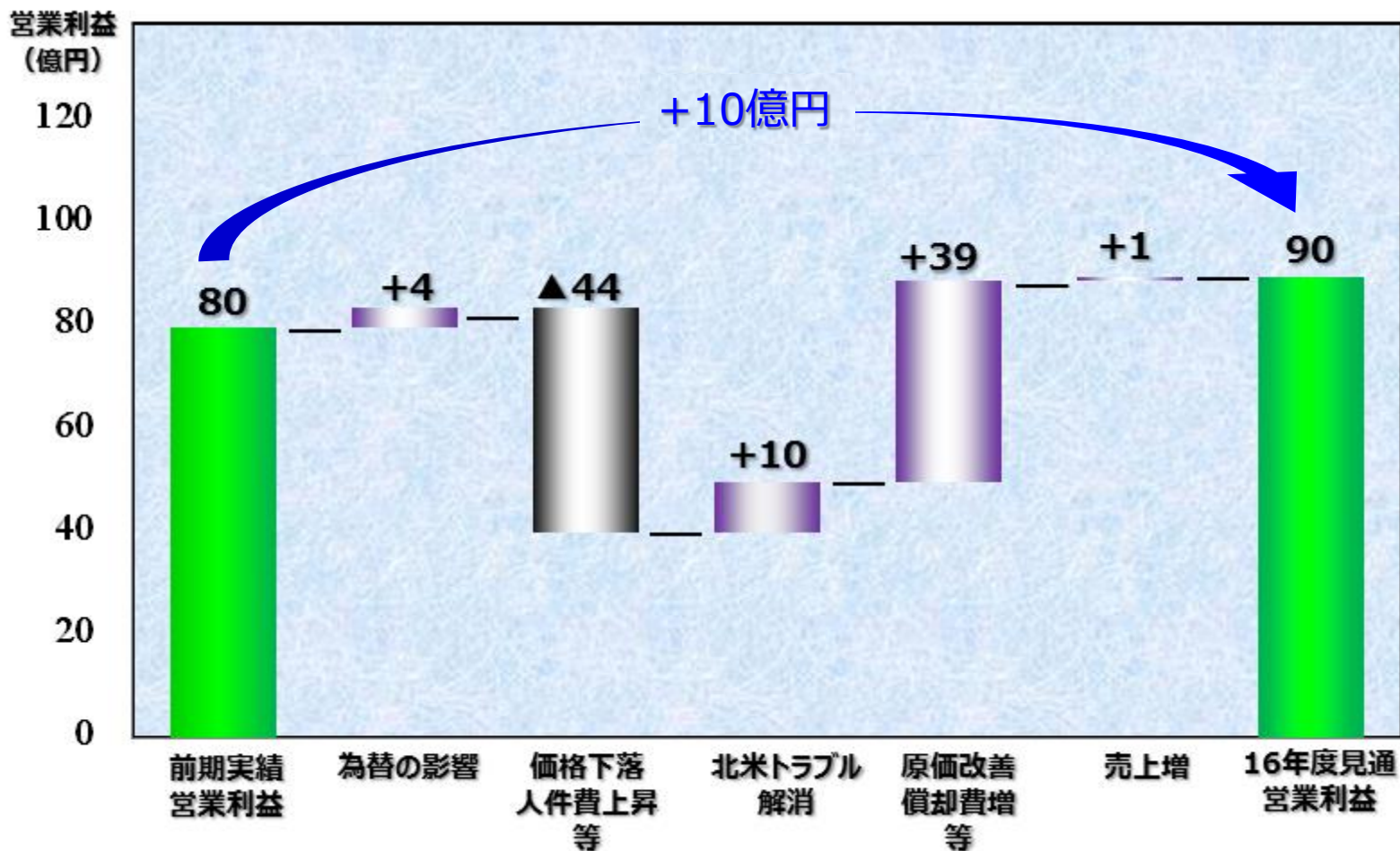
2015年度を100とした時の各年度の生産台数の前提（14～15：実績 16～：見通し）



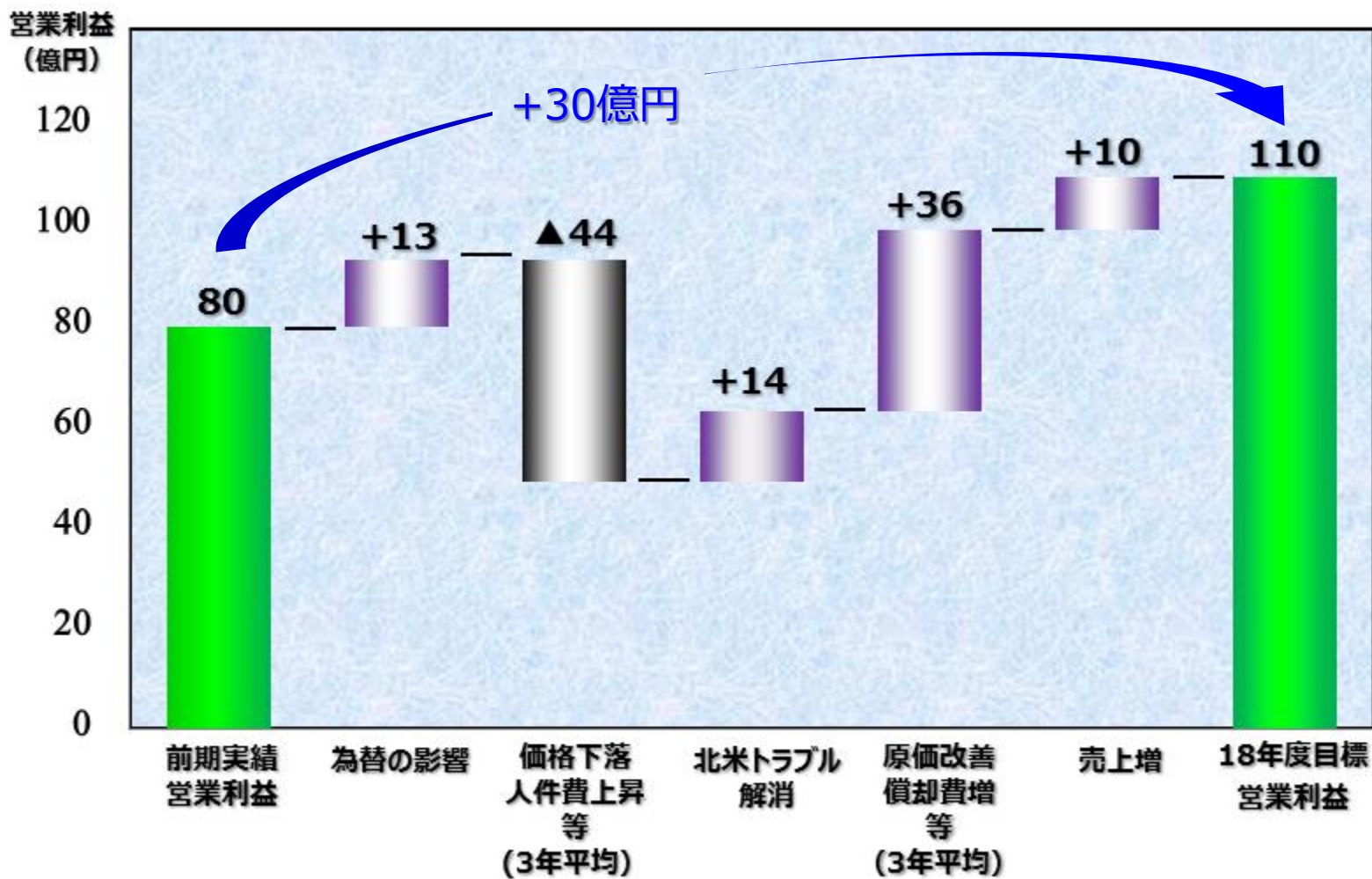


	15年度	16年度	前年比
売上高	2,383	2,400	101 %
営業利益	80	90	113 %
営業利益率	3.6 %	3.8 %	+ 0.2 %

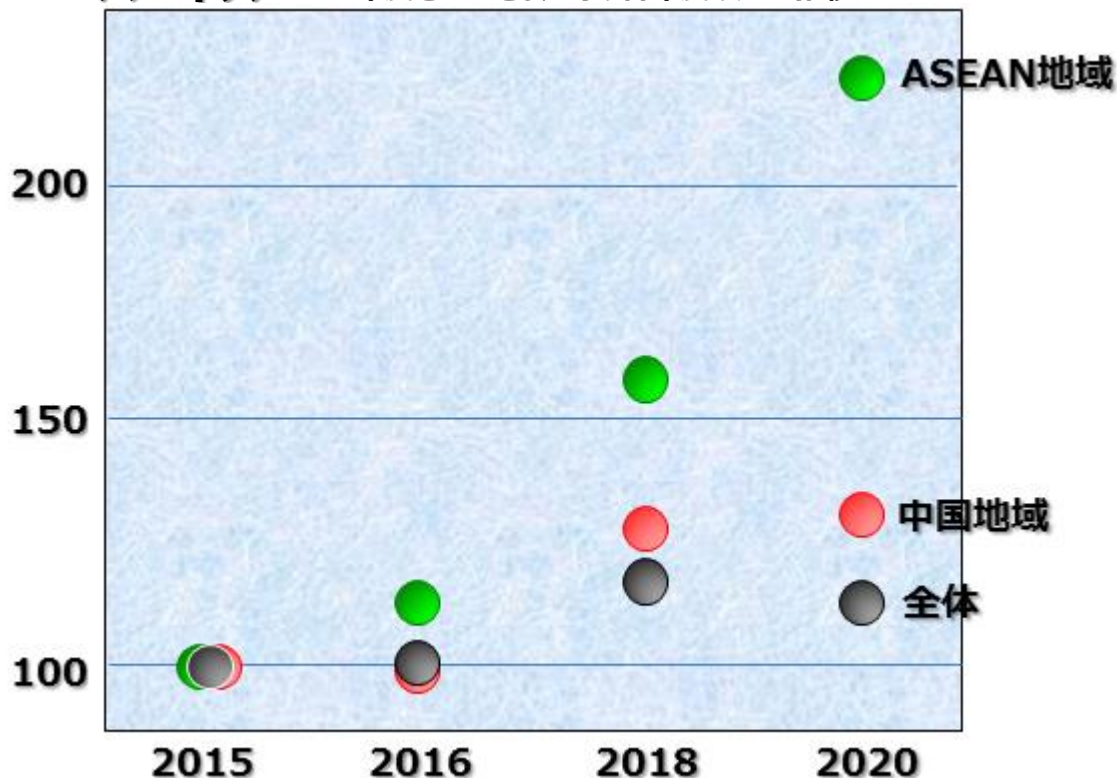
自動車部品・電池 16年度営業損益の見通し



自動車部品・電池 18年度営業損益の目標

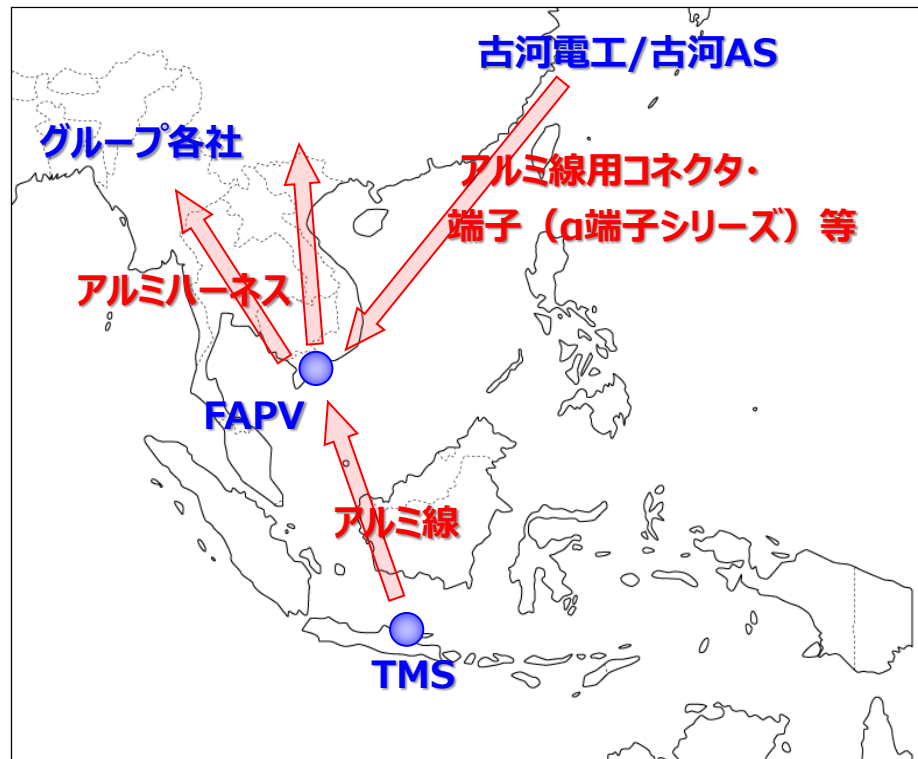


ハーネス 2015年度を100とした時の各年度の売上推移



- ・ 海外日系カーメーカーの需要を取り込むべく、設計/営業を行う統括会社を、中国とASEAN（タイ）に設置。
- ・ 縮小する国内市場に対し、市場拡大する両地域へのシフトを促進。

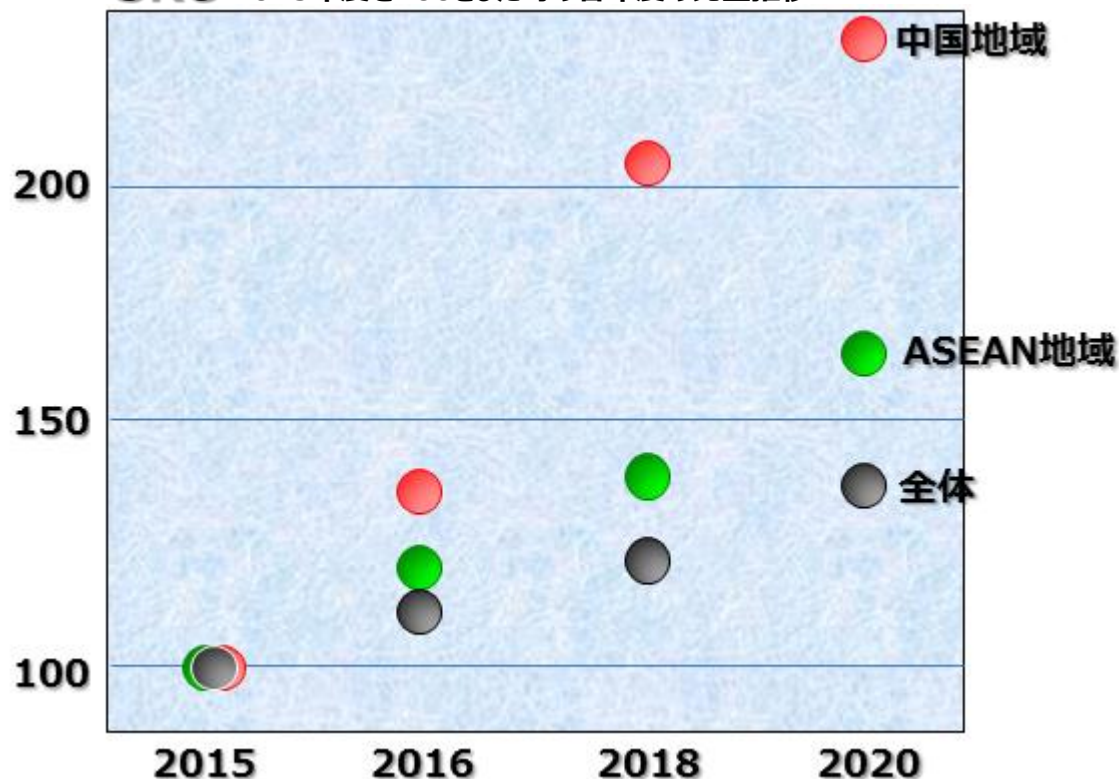
ワイヤハーネス事業 ～ アルミ化 ～



素材～電線～ハーネス化の全プロセスをグループ内に保有

- ・ グループ内の一貫生産体制により、合金開発/工程設計の最適化が可能。

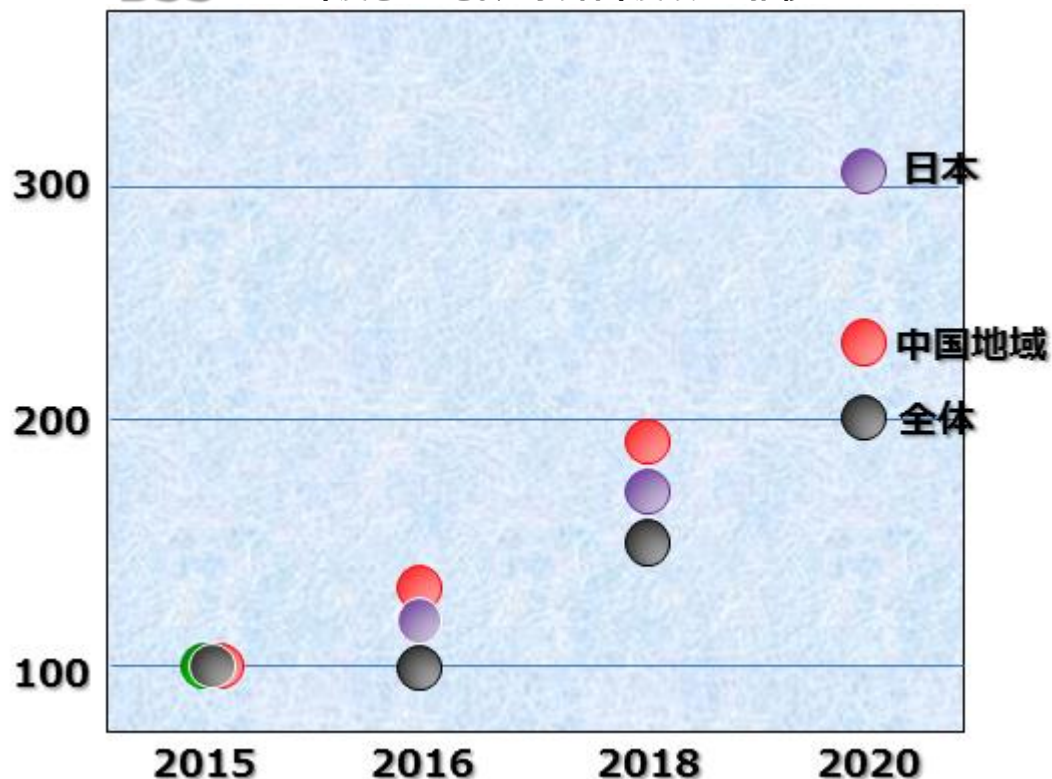
SRC 2015年度を100とした時の各年度の売上推移



中国とASEANに地域統括会社を設置

- + 法規制に伴い拡大が見込める地域（インド/ブラジル）での拠点設立**
- シェア拡大の余地が大きい欧州カーメーカーへの営業拠点設立**

BSS 2015年度を100とした時の各年度の売上推移



- ・ 北米/中国/フィリピン(日本向) の3拠点の供給体制を構築中。
- ・ バッテリー容量の劣化進行を高精度に検出可能な第二世代を17年に投入。

古河グループにて新たな安全/環境技術を展開

周辺監視レーダー



- ADAS*のキーデバイス
- 通信分野で培った高周波技術/信号伝送技術を展開
- 先行する欧州メーカーに比べ高い安定性と応用性を実現
- 車載部品事業の3つ目の柱

20年度売上目標
: 100億円

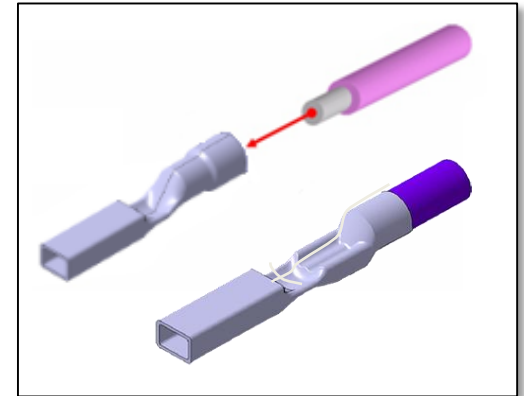
*安全運転支援システム

車内照明/計器 反射板



- 照明や計器の反射板に使用して車を軽量化
- 微細発泡技術を応用し、軽量/高反射率かつ優れた加工性を実現
- 省エネのキーデバイスであるLEDの課題であった照度ムラを解決

アルミ線用 防食端子 (α端子シリーズ)



- ハーネスのアルミ化における課題である異種間腐食を解決する新防食端子
- 銅合金技術とレーザー技術を生かして、高信頼性と生産性を両立。
- 15年から量産開始
同年の新型ランドクルーザーに採用